



八重瀬町水資源の活用のあり方に関する 地域円卓会議

地下水の恩恵を受けてきた具志頭地域、
その資源の価値を再評価し、現代における活用についてみんなで学ぶ

実施報告書

日 時： 2022年3月8日（火）18:30-21:10
場 所： 八重瀬町役場2階大会議室（沖縄県八重瀬町字東風平1188）、オンライン配信
主 催： 八重瀬町・琉球大学 JST SOLVE for SDGs プロジェクト
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT



【報告】八重瀬町水資源の活用のあり方に関する地域円卓会議

- | | | | |
|-------|--|------|------------------------------------|
| ■日 時 | 2022年3月8日(火) 18:30-21:10 | ■主 催 | 八重瀬町・琉球大学 JST SOLVE for SDG プロジェクト |
| ■場 所 | 八重瀬町役場 2階大会議室(沖縄県八重瀬町 字東風平 1188)、オンライン配信 | ■協 力 | 公益財団法人みらいファンド沖縄 NPO 法人まちなか研究所わくわく |
| ■着席者数 | 9名(論点提供者、司会、記録者含む) | | |
| ■来場者数 | 38名(行政、農関係、教育機関、学生等) | | |

論点提供

島添 和博

(八重瀬町役場 経済建設部 土木建設課)

安元 純

(琉球大学 農学部 助教)

地下水の恩恵を受けてきた具志頭地域、その資源の価値を再評価し、現代における活用についてみんなで学ぶ

八重瀬町と琉球大学は2019年から、共同で「八重瀬町・琉球大学 JST SOLVE for SDGs プロジェクト」に取り組み、地域住民ひとりひとりが水との関わり方を考え、行動するためにはどうすればよいかについて、研究活動や地域活動を通じて模索しています。今回は、八重瀬町の水資源と暮らしにまつわる事実やエピソードを確認しながら資源としての価値を再評価し、今後の資源活用の方向性を見出すための円卓会議を開催します。

センターメンバー



安元 純
琉球大学
農学部 助教



島添 和博
八重瀬町役場
経済建設部
土木建設課



久保 正雄
八重瀬町
具志頭区 区長



屋宜 芳文
屋宜農園 代表



伊野 博一
八重瀬町役場
経済建設部
農林水産課 班長



兼城 純
南部水道企業団
管理課 課長



ぐし ともこ
湧き水 fun 倶楽部
代表

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さまから（板書の記録を元に作成）

事実の提供

- 琉球大学では 2014（平成 26）年ぐらいから、水循環プロジェクトを立ち上げ、沖縄を基点とした、亜熱帯、熱帯、島嶼地域の水循環の健全化を目指し、また水資源を利用し管理していくための研究をしてきた
 - 八重瀬町は、水資源と暮らしが密接に関わっている
 - 具志頭地区は雨が浸透しやすい琉球石灰岩が広く分布しており、地下水が豊富な地域である
 - 八重瀬町の地下水調査を実施し、三次元シミュレーションモデルを構築することで、地下水の流れを可視化することができた
 - 役場職員でも、具志頭地域の地下水について知らなかった。旧東風平町民に認知されていないのではないかと八重瀬町には、「地下水保全条例」があるが、役場に水資源に関する専門的な知見が不足していた
 - 役場としては、水路のメンテナンスには補助率が高く、安全性と効率性を重視する
 - 三面張りの水路になってから、川の自浄作用がなくなっており、大雨になると海に赤土が流出してしまう。近年、自然の護岸に戻すという国の動きもある
 - 具志頭地区には、大きな泉のヤフガーがある。30 年間くらいは直接飲料水として利用されていたが、水質汚染があり、1992（平成 4）年から南部水道企業団が管理している
 - 今でもヤフガーの水は農業用水として利用されており、20 名の会員がいる
 - 昔は、ヤフガーにも手長エビ、モクズガニなどがいた
 - 今はヤフガーも拌みや旧正月の時にしか利用されていない
 - 大頓地区ではかつて湧き水がなかったため、組合をつくり、具志頭地区から共同水源をひいていた
 - 地下ダムの使用料 25 円/トン。読谷では 40 円/トン。水道料は平均 200 円/トンである
 - 県内各地に似たような設備はあるが、ほとんどの水源はダムである
 - 八重瀬町は畜産業が盛ん。環境保全のため、排泄物をうまく活用し、資源循環型農業の実証実験を行った
 - 硬度があると、香りが立ってコーヒーや紅茶が美味しくなる。また、ぶくぶく茶は硬度が高くないと泡がたたない。硬度の高さを活かして利用できる
- ＜2020（令和 2）年度八重瀬町民意識調査「水資源と生活に関するアンケート」＞より
- 地下水を利用しているかの問いに対して 67%の人が「地下水を利用していない」と答えた
 - 湧き水との関わりについて一番多い回答は「拌み」の場所（25.9%）としての利用だった
- ＜南部水道企業団＞
- 南部水道企業団は、1962（昭和 37）年に当時の具志頭村、東風平村、大里村と南風原村の 4 村で構成され、いまは八重瀬町と南風原町である
 - 1968（昭和 43）年には、ワタヤー水源で水量 4500 リットル、ギーザ水源からは最大 4000 リットル取水できた
 - 八重瀬町内への給水には、地下水を利用している
 - 2002（平成 14）年から地下ダム取水を開始し、一日 2500 トンを供給している
 - 地下水は石灰岩が含まれることから硬度が高いため、住民の要望に答え、県企業局の水とブレンドして供給している
- ＜湧き水 fun 倶楽部＞
- 沖縄県内には 1000 カ所を超える湧き水があり、400 カ所以上まわり取材した
 - 湧き水に関する言い伝えや水質調査、伝統について冊子にまとめた。浦添市とは、防災マップを作成し、子どもたち向けにカルタもつくった

評価の提供

- 琉球大学のプロジェクトに参加できるのは良い機会である
- 農業用水として簡単に利用できるため、地下ダムには非常に助かっている。また動力なしで、スプリンクラーを回すことができるのはありがたい
- 農家としては、契約後、バルブをひねるだけで水出てくるので非常に助かる
- 地下ダムは安くて水量もある良い水源であり、農家としては動力・タンクを設置する必要がないから助かる
- 地下ダムが出来る前は、サトウキビや芋がメインだったが、地下ダムが出来たお陰で、ハウス栽培で野菜が出荷できるようになり、農家の収入が増えたのではないかと。農家にとっては恩恵がある
- 具志頭地域は、他の地域と比べて、農業や飲料などでも相当使われており、大事に使われていて羨ましい
- 水質の問題が気になっている

- 1962（昭和 37）年から 60 年間、地下水が飲み続けられている。これからも使い続けられるようにしたい
- 八重瀬町民へのアンケート、湧き水との関わり方一位が「拌み」というのがすごく良い。拌みの場所であり、大事にすることで、子どもたちや親しみがない方へも昔の文化を伝える意義がある

視点の提供

- 研究者だけではなく、地域の方や水資源を活用している方々など様々なステークホルダーと水に関する課題や利益を共有し、認識することが大事である
- 行政だけだと、無難な方に決定しがちになるけども、環境・文化・観光などの視点で住民と一緒に議論できる場があれば良い
- 水資源の価値を再評価し、今後の活用について方向性を見出すことが必要
- 島嶼地域で水資源を持続的に利用し活用管理していくためには、今までの一方的な管理ではなく、地域の人達が関わって一緒に管理していくような流域ガバナンスが必要
- 流域協議会などを設置し、様々なステークホルダーとの対話と協働の場づくりが必要になってくる
- 流域協議会を設置し、色々な分野、世代、自治体が集まって話し合える場が必要。長い将来のことを意識して、持続可能的に水資源を維持する仕組み、意識づけが必要になる
- 水資源を大事にするためには、トップダウン的な制度も必要になる。また同時に地域の人々の水資源の意識を高めるための活動が必要になる
- 水資源を持続的に利用していくためには、水資源の水量と水質を把握しなければならない
- 地域の水を確保することは、命を守ること。防災の立場からも大事である
- 世代間で情報共有を行い、交流の場をつくる必要がある
- 地下水資源が豊富であることを多くの町民に知って欲しいし、利用についても話し合う場が必要である
- かつては生活全般に利用されてきた湧き水が水道の普及によって、疎遠になってきているので、知る機会を増やしたい
- 若い人たちも一緒になって、湧き水の魅力を感じ、関心を持ってもらうようにする
- 具志頭の浜は砂浜だった。昔の人は環境に対する意識が低かったので、砂を売ってしまった。昔のような砂浜に戻ったらいいと思う
- ゴミが捨てられている。それは用水路としてしか見られていないのでは。安全性の確保もはかりながらもっと川と住民の距離が近くなるといけない
- 農薬や肥料による水質汚染を取ってみても、一概に農家が悪いとなってしまっただけでは、対立しか生まれない。そのため、法制度を整え、行政がうまく間に入って調整役になってもらう必要があるのではないかと
- 全国的にいえるが、オランダのように堤防を高くした設備になっており、地域の人が川に行きにくいようになっている。最近では、親水性を持たせるため、近自然型や多自然型として、人が水と接点を持つような仕組みが必要になる

<活用アイディア>

- ヤフガーを親水公園として活用してはどうか
- 自然のなかで水と親しむ場
- 子どもたちが水について理解する場として親水公園をつくる。親も関心を持つので、普及効果がある。また観光資源にもできる
- 遊び場として、釣りや水車をつくり、稲作体験をすると、他の地域の方も興味をもってくれるのではないかと
- 硬度が高いことを活かしてコーヒーを販売する
- 自然の水を飲みたいという県外の方は多い。硬度が高いことを活かして、飲料水を販売する

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) 地下水を県内で唯一飲料水にも使用し、他用途でも活用している先進地である。まずは、そのことを、あらゆる世代に対して訴求していくべき。シビックプライド（地域に対する市民の誇り）の醸成等の波及効果も期待できる。
- 2) 次段階として、地下水活用の阻害要因を様々な立場から議論する場を設定し、発生した利害関係を 1 対 1 ではない形で解決に導くようにしたい。1) で巻き込んだ住民や事業者にも積極的に課題を共有することがポイント。特に行政は、事業主体者であり、かつ住民参画のコーディネーターでもあることを自覚し、市民側も責任感をもって「自分のこと」として議論に参画できる場をつくろう。

■参加者によるサブセッション

地下水の恩恵を受けてきた具志頭地域、地域の水資源を、 今活用するためにどんな取り組みが必要か

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- 那覇市上間・識名にも自然豊かな湧水があったが最近では蓋がされている。
- 読谷村座喜味は湧水が多いが、日常的に使わないので淀んだり水量が減ったりしている
- 具志頭地域について：
 - ・地下ダムができて利便性が上がった
 - 一方で水道が普及して湧き水との関係性が薄れている
 - ・湧き水に対する郷愁はあるけど切迫した状況にはない
 - ・希薄化すると地域全体のコミュニティ力が低下する
 - ・受けている恩恵を再評価する
- 時代にあった新たな資源化を考える(活用の動機付け)
- 保全・管理・利用の在り方を考える
- 価値を見出す

②

- 親水公園の活用は良いアイデア。人も集まるし経済効果もありそうで継続性もあるのでは。
- 子供たちが地下水を理解する場として親水公園は有効。
- 小さい子供たちが集まる場があると、親も地下水に関心を示す。
- 地下水のウォータースライダーがあると子供たちは喜ぶかも。
- 観光で地下水に触れる魅力を生み出しては。
- お年寄りには湧き水が懐かしい。若い人たちは

湧き水の何に魅力を感じるか知りたい。

- それをきっかけにして、良い取り組みが見つかるのでは。
- ③
- 親子で湧き水を学ぶ機会を作る(学校の間を借りて、親は子どもが関係すると興味を示すから)、レクチャーはシニアや高校生が担当することで「伝える」繋がりを作る。子ども達、働き盛り、シニア
- 情報発信にSNSを使う! 地域の取組を若い世代が使いやすいツールで伝える。高校生ではカルタよりも SNS が身近なツールなので、それを使うとより自分ごとになるのでは
- 沖縄の方はおばあやおじいとの交流があるイメージ
 - 現実には交流は少ない。どちらかというと、おばあ達から若者に声かけしてくれる事が多い。

④

- コーヒーを入れるとおいしい
 - 具志頭コーヒーをつくってうりだす! (アムロコーヒー)
- コントレックス(やせる水)
 - 硬度の高い水进行!
- エビアン→300
- タナゲーブリ
- 硬水のよさー食文化
 - ・稲づくり
 - ・水車をまわす

⑤

○河川。菊。

○湧き水の記憶がない

○ジーシルー（水道）

○農業用溜め池

○ 農業用水として

・ 具志堅→東風平で活用

（県と動き始めている。連携しながら）

○ 防災、新しいアイデア。

○ 農林水産課

・ 畜産や農業への指導

⑥

○ 今取りくんでいること、現状

・ 湧き水マップ

・ 文献など調べリストアップ、地図化

・ 金城課長（東風平）

→門中、御願、継承

○ 安全管理

・ 近よれない

・ 具志頭とは違う

・ 地域の箇所を回る

○ 照屋さん

・ 農業用水

・ 途じょうで出てるものを活用

⑦

○ 白水川

○ 世持井

○ 3面張り

○ 減災のために防災

○ 自然橋の下

○ 倉敷ダム

○ 元に戻す

○ 宇見水

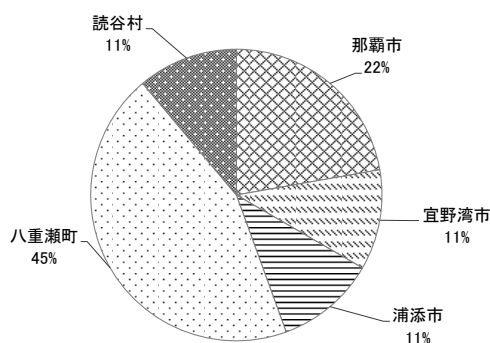
○ カデシ川を応用

八重瀬町水資源の活用のあり方に関する地域円卓会議 参加者アンケート集計

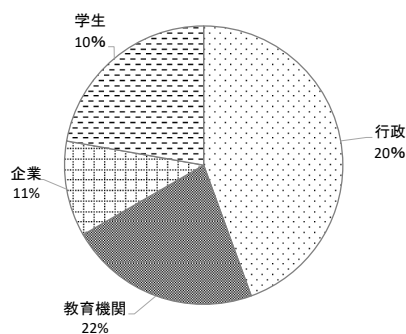
◆概要

- ・日時：2022年3月8日（火）18:30-21:10
- ・場所：八重瀬町役場 2 階大会議室（沖縄県八重瀬町字東風平 1188）、オンライン配信
- ・着席者：9 名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：38 名（アンケート回収 9 名、回収率 23%）

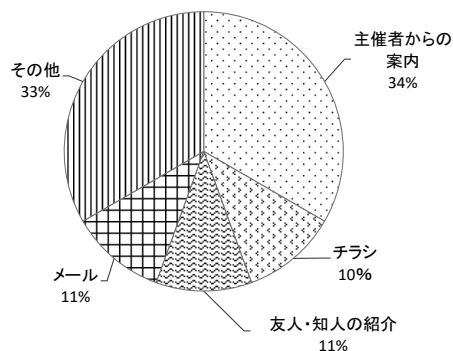
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.6（5 点中）

5.満足	4.概ね満足	3.普通	2.あまり満足していない	1.不満足
5 名	4 名	0 名	0 名	0 名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・着席者（パネラー）の人選が良く広く多方面からの色々なご意見が聞けた
- ・いろいろな方達の意見が聞けて地下水に対する理解が深まった。
- ・高校生として何が出来るのか考えることが出来るいいきっかけだった
- ・南部の地下水に対して、科学的・社会的に取り組まれているのが面白かったです。
- ・多様な立場と視点を通して、科学的な解と社会的な解の間にあるギャップを知ることができたから。
- ・行政、農家、地域、学者、それぞれの水資源に対する考えていることが異なっていることがわかった。なにに価値があるのか、なにをすべきか、だれがするのか、など、今回で答えは出なかったが、活用するのかしないのか、このままでいいのかも含め、今後の方向性をみつけるためのスタートになったと思う、

（4. 概ね満足）

- ・水の利用方法について、いろいろな角度から考えることができた。
- ・話の最後の方で水質の保全についての話が出た。流域協議会を作ること等農薬の使用等の調整を行政で行ってもらいたい。
- ・初めての円卓会議で、最後にしっかりまとめが行われた。
- ・多様な関係者が参加していた。コーディネー

トも上手

- ・ 多様な立場と視点を通して、科学的な解と社会的な解の間にあるギャップを知ることができたから。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 古くから地下水の恩恵を受け、生活に密着していたことが新た得て分かった。今後、この資源を、後世に残して行くことを考えて行かなければならない。地下水を活用した親水的利用→想いの場を作る
- ・ コーヒーを作って販売してみても？（硬度が高い水）。
- ・ 川と地域住民との接点を生かした整備が必要（接点が少ない）。
- ・ ・子供達に水に関する場の設定が必要、水の大切さを理解させる。
- ・ 向陽高校 SSHやサマースクールで子供たちが湧き水の何に興味を持っているかをヒントに取組みを考えること。親水公園、硬水でコーヒーなど
- ・ 親水公園の提案がいいアイデアだと思った！
- ・ 子供たちが遊ぶ場ができることで若い層の人達が意識するチャンスだと思う！”
- ・ 利害関係でぎすぎすしない環境をつくること
- ・ 地下水の流れを模型に投影されているのが分かりやすかったです。
- ・ アンケート結果（機会があれば分析と考察を知りたいです）、親水公園構想、湧水の防災資源化
- ・ 屋宜さん「ごみを捨てて水を汚しているのは地元の農家」の発言が印象に残った。

(写真) 会場の様子



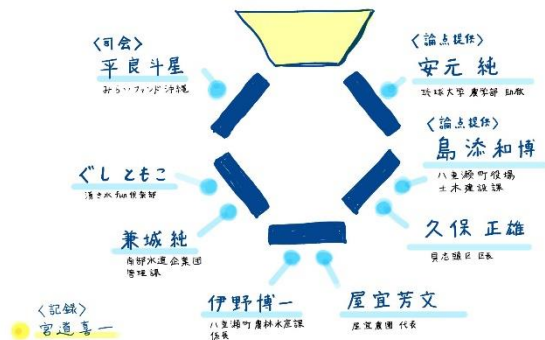
地下水の恩恵を受けてきた具志頭地域、
その資源の価値を再評価し、現代における活用についてみんなで学ぶ。

八重瀬町水資源の活用のあり方に関する
地域円卓会議

2022 **3/8** Tue 18:30 START
会場：八重瀬町役場 2階大会議室＋ZOOM配信

**参加
無料**

主催 八重瀬町・琉球大学 JST SOLVE for SDGsプロジェクト
協力 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく



2022.3.8

112回目 地域の困りごとを
社会課題として共有・共感する場



論点提供



琉球大学 農学部 助教

安元 純氏

沖繩県那覇市出身。農業工学、水文学、環境動態解析、島嶼水環境学を専門とする。愛媛大学大学院にて博士号（農学）を取得したのち、九州大学大学院工学研究院学術研究員、総合地球科学研究所地下環境プロジェクト研究員を経て現職。

地下水の塩水化、海底地下湧出、サンゴの石灰化、蓄積型栄養塩、陸と海との相互作用、流域ガバナンス、などを研究テーマとしている。

管理からガバナンスへ

八重瀬町水資源の活用のあり方に関する地域円卓会議のご案内

円卓会議とは

「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。

テーマ

地下水の恩恵を受けてきた具志頭地域、
その資源の価値を再評価し、現代における活用についてみんなで学ぶ

＜論点提供者＞島路 和博氏（八重瀬町環境土木建設課、安元 純氏（琉球大学 農学部）

八重瀬町は、2018年に「第2次八重瀬町総合計画」の中で「豊かな水資源の保全と水循環の健全化」を策定している。琉球大学では2014年から「水循環プロジェクト」の中で、沖縄を起点とした熱帯・亜熱帯島々一帯の水循環の健全化を目指した水資源の利用や管理のあり方を研究しながら、それを地域のタテと地に着いた取り組みがすすめてきた。2019年からは、共同で「八重瀬町・琉球大学 JSU TSEV for SDGs プロジェクト」に取り組み、地味住民ととりがかりの環境あり方を考え、行動するにあたりていっしょにいて、環境意識の醸成活動を通じて成長していき

今回は、八重瀬町の水資源と暮らしにまつわる事実やエピソードを確認しながら資源としての価値を再評価し、今後の資源活用の方角性を見出すための円卓会議を開催します。

2014年頃から水循環の研究を

水資源 とくらし

評価

創用


八重瀬町・琉球大学

JST SOLVE for SDGs プロジェクト

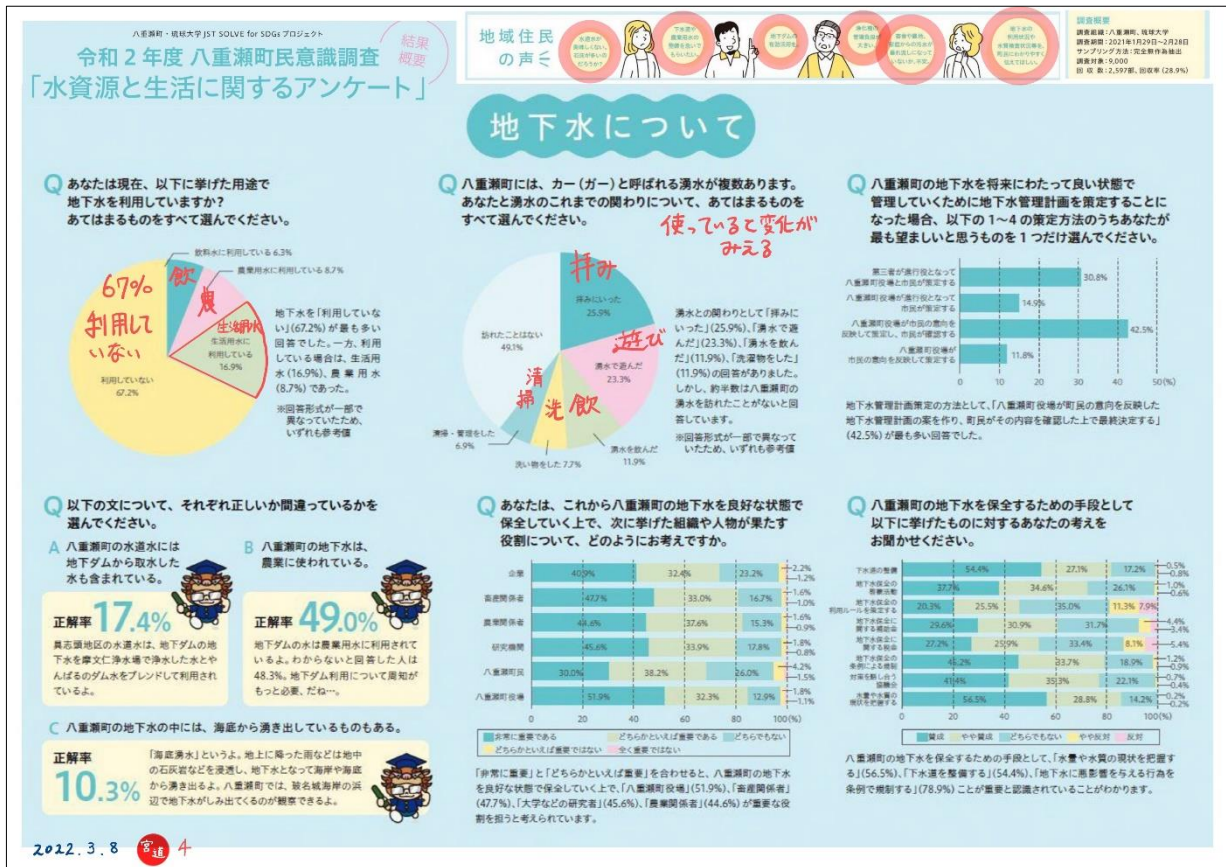
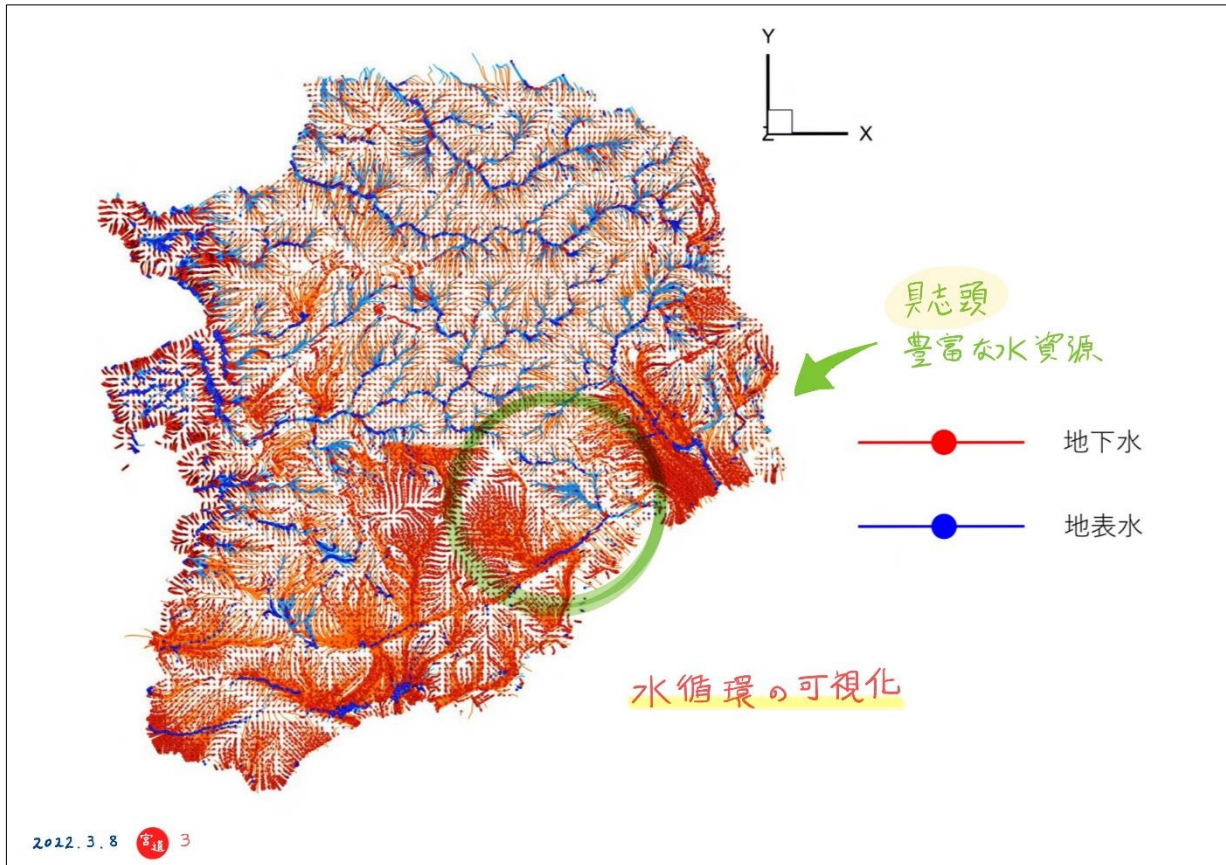
八重瀬町と琉球大学は、八重瀬町の水資源を健全かつ持続的に活用していくための価値創出に取り組んでいます。八重瀬町には地域住民に親しまれる観光地、農漁業盛んなるの郷みや、環境、健康、自給自足といった利用があります。その豊富な水資源を地下までとまで利用するの環境的コストが懸念され、さらには自然の恵みをつぎつぎ利用する。そこで考えられたのが、生産活動や暮らしの中をめぐって循環しています。この「八重瀬町・琉球大学 JST SOLVE for SDGs プロジェクト」(201811~2023.3)では、科学的データに基づいて八重瀬町の水の流れを「見える化」し、地域の価値と「対話と協働」を促した課題解決を目指しています。




*「見える化」は、環境省環境政策評価センターが実施する環境政策評価プラットフォーム「見える化」によるものです。
*「対話と協働」は、環境省環境政策評価センターが実施する環境政策評価プラットフォーム「見える化」によるものです。



2022.3.8 宮道 2



SOLVE for SDGs 八重瀬町プロジェクト

地域の環境の未来を
科学する
サマースクール 2021

参加費：無料
申込：八重瀬町の小学生
対象：7歳～12歳
申込先：八重瀬町役場 環境課

開催日時：7月10日（土）10:00～15:00
開催場所：八重瀬町立中央公民館

内容：SDGsの学習、実験、観察、発表など

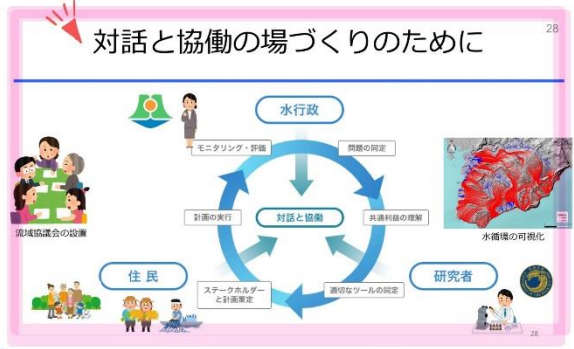
SOLVE for SDGs 八重瀬町プロジェクト サマースクール2021

参加費：無料
申込：八重瀬町の小学生
対象：7歳～12歳
申込先：八重瀬町役場 環境課

開催日時：7月10日（土）10:00～15:00
開催場所：八重瀬町立中央公民館

内容：SDGsの学習、実験、観察、発表など

サマースクールの参加
募集に八重瀬町の
小中学生150人が
応募
海岸施設が利用でき
ずに来年度に延期



様々な方と課題と利益を共有
ステークホルダーとの対話と協働の場づくり

カラベジ 春の旬菜まつり

3/13 (日)
10:30～

八重瀬町のカラベジ（野菜）が旬を迎える春。カラベジが100円でカラベジファーマーさんの野菜づくりの活動を支えながら、にんじん、きゅうりなどの収穫体験もできます。野菜の川や海への流出を防ぐための活動について子どもにも分かりやすく説明します。お昼は3種類のカラベジカレー料理を食べながら、野菜ファーマーさんのお話をうかがいます。親子で楽しみながら学びましょう。

会場 カラベジカレー畑

参加費 大人2,500円 大人追加1,500円
小学生500円 6才未満無料

定員 先着60名限定

（体験料に含まれるもの）
①野菜の収穫体験 ②昼食（カレー） ③収穫したカラベジににんじん、きゅうりなど約1kg、生1玉運送

（お問合せ・お申込みは）
☎（098）998-4334 申込：3/10～17:15
主催：カラベジプロジェクト（八重瀬町農工商会）

2022.3.8 5



八重瀬町役場 経済建設部 土木建設課

島添 和博氏

1972年生まれ 旧東風平町出身
所属：八重瀬町役場 経済建設部 土木建設課
平成11年4月 東風平町役場 採用 建設課配属
平成15年 田園都市課 配属
（平成18年1月 町村合併により八重瀬町役場）
平成19年 学校教育課 配属
平成23年 区画整理課 配属
平成26年 土木建設課 配属 現在に至る

合併してから水資源（地下水）知った
旧東風平の人は認知していないのでは
地下水という資源を活かしたい
地下水保全条例 があるが、知見データがた
琉球大学とのプロジェクトへ



八重瀬町員志頭区 区長

久保 正雄氏

八重瀬町員志頭区で2010年より区長を務める。
2020年に発刊した『ぐしちゃん字誌』の編集作業では区長として編集委員会の立ち上げや資料集等に携わった。

ヤフガー（屋富祖井） 水質汚染
飲料水 30年以上使った
南部水道 が管理（H4～）
農業用水
20名の全員で使っている
昔は
てながエビ、モズクガニなどいた
今は使われていない
親水公園という活用 3イデス

2022.3.8 6



屋宜農園 代表

屋宜 芳文氏

1966年 八重瀬町生まれ
1990年 琉球大学農学部卒
2003年 民間企業を経て就農
2022年 八重瀬町区長会副会長、八重瀬町カラビナ推進委員、
八重瀬町大頓区自治会長

地下ダムの受益地域
動力なしでスプリンクラー
水圧3ヤロくらいある

かつて
よその土地の共同水源もっていた
水源としてとても助けている
動力・タンクを設置する必要ない

他の地域は、ダムになる
基本使用料 25円/t
読谷 → 40円/t
水道 → 200円

水質が気になる

2022.3.8 第7



八重瀬町 農林水産課 班長

伊野 博一氏

旧貝志頭村仲屋出身
平成6年11月旧貝志頭村役場村長運転手として勤務（臨時職員）
平成11年9月貝志頭村役場学校教育課（貝志頭給食センター調理員）採用
平成18年4月八重瀬町役場学校教育課
平成20年4月八重瀬町役場学校教育課
平成24年4月 福祉課
平成30年4月 学校教育課
平成31年4月 現在、農林水産課勤務

地下ダムできる前
サトウキビとイモが主だった
地下ダムできて、ガラッと変わった
農業になっておんけいある
契約して、ハルビニャって水出る

畜産のはいせつ物
資源循環型の農業



南部水道企業団 管理課 課長

兼城 純氏

学歴：昭和57年3月 沖縄県立糸満高等学校卒業
昭和61年3月 日本文理大学（土木工学科）卒業
出身地：八重瀬町字安里出身
職歴：昭和61年4月 株式会社 丸元建設（土木部）入社
平成2年2月 株式会社 丸元建設（土木部）退社
【南部水道企業団での経歴】
平成2年3月 南部水道企業団（工務課）採用、機構改革により平成2年4月 施設課配属、平成8年4月管理課配属、平成9年6月経理課配属
平成15年4月 業務課配属（業務課長）、平成18年4月 施設課配属（施設課長）、平成22年4月 総務課配属（総務課長）、平成28年4月 管理課配属（管理課長）、現在に至る

S.37 4村での事組合して



今は八重瀬町と南風原町（2町）

地下水利用は八重瀬町のみ

(2500 t/日
H14 取水（地下ダム）)

(S.43 4000t
ギザギザ水源
ワヤヤ水源
4500t)

硬度が高い 給水うけている方から要望



ブレンドして低減化している

2022.3.8 第8



湧き水fun倶楽部代表

ぐし ともこ氏

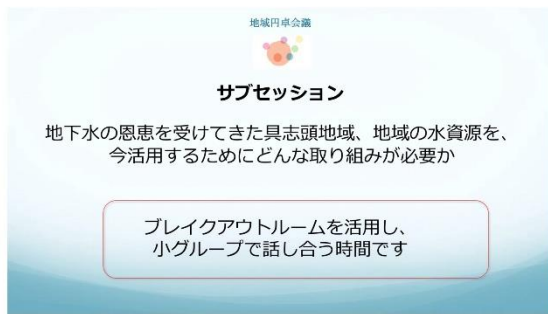
那覇市出身 浦添市在住
湧き水fun倶楽部代表
1998年から2008年の10年間、ラジオ沖縄で放送された「多良川うちなあ湧き水紀行」のパーソナリティとして県内の約400か所の湧き水を訪ねて取材
番組終了後、2010年、湧き水に関する情報収集と発信を目的とした『湧き水fun倶楽部』を結成
2016年11月にボーダーインク社より「おきなわ湧き水紀行 散策・樋川と井戸」を発行

400ヶ所

県内 1000ヶ所とこころ湧き水ある
400ヶ所まわった MAP・冊子・カルタ
知るキカイ いざというとき、命を守る水
世代間での情報共有と交流

アンケート → 拝みで使われている（1位）
なぜ大事にしているのか、伝えて

他の地域とくらべて、使われている



2022.3.8 9

制度 保全するため

地域住民 水資源への意識
もう一度目を見て再評価するには
どう とりくんだらよいのか

親水公園
こどもたち集まる
親も関心もつ

観光で利用

若い人は何に
関心をもっているのか

硬度の高さ
コーヒーおいしい
具志頭コーヒーとい

おーしー水を
飲んでみたい

硬水を売る
エビソンに負けてない

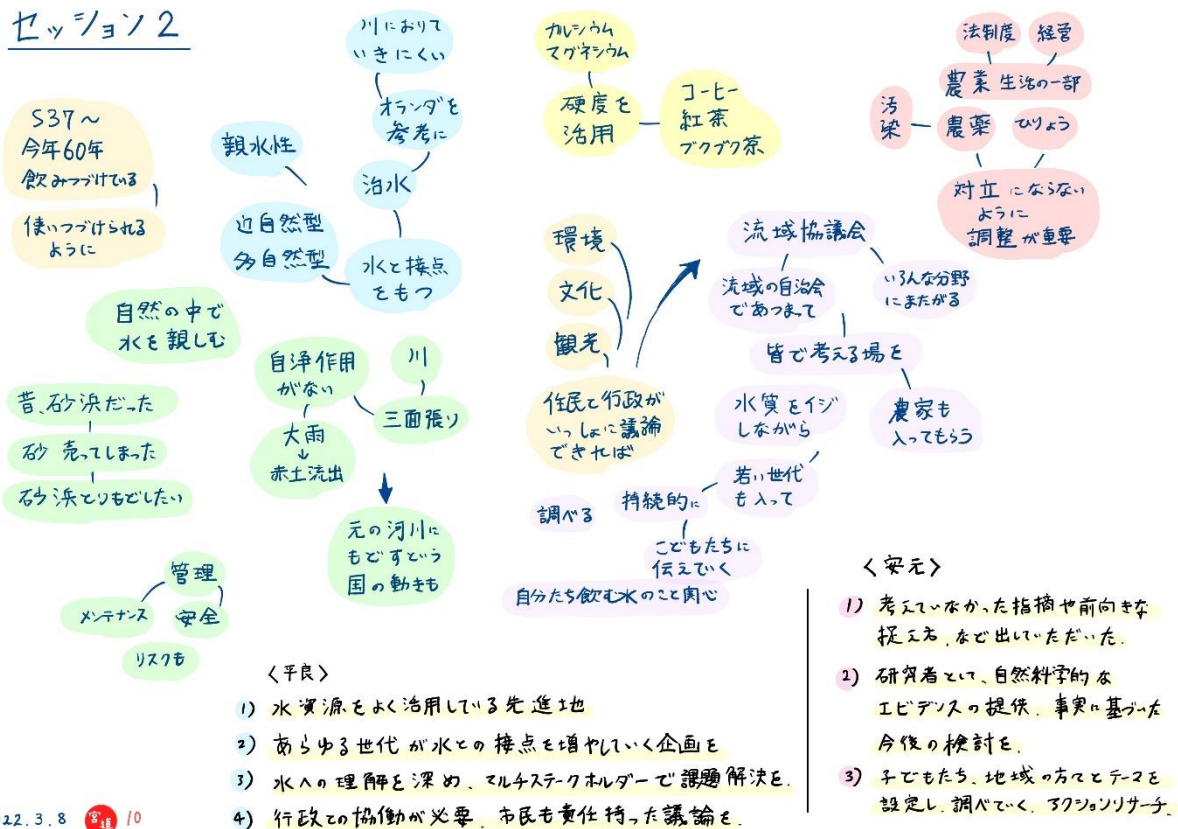
フリ
水車
船づくり体験

現状

用水路と住民がはなれている
入ってふれる状況つくる

ゴミすてられている
キャリをちぎめるためには、
安全性の確保 水場と

セッション2



2022.3.8 10